

氏 名	中西 美千代
所 属	人間健康科学研究科 人間健康科学専攻
学 位 の 種 類	博士（看護学）
学 位 記 番 号	健博 第103号
学位授与の日付	平成28年3月25日
課程・論文の別	学位規則第4条第1項該当
学位論文題名	ターミナルケアに携わる看護師のエンパワーメントに関する研究
論文審査委員	主査 教授 勝野 とわ子 委員 教授 河原 加代子 委員 教授 習田 明裕 委員 名誉教授 志自岐 康子（元首都大学東京教授）

【論文の内容の要旨】

本研究は、ターミナルケアに携わる看護師のempowermentを明らかにし、ターミナルケアにおいて無力感や自責の念などを抱え、バーンアウトに陥りやすい看護師の支援に貢献することを目的としている。具体的には、1)「ターミナルケアに携わる看護師のempowerment」の概念的構造、及び定義を明らかにするために概念分析を行った<研究1>。2) Work Empowerment Modelを日本の医療機関でターミナルケアに携わる看護師を対象に検証し、有効性を明らかにした<研究2>。3) ターミナルケアに携わる看護師の心理的empowermentの概念枠組みを概念分析の結果、及びWork Empowerment Modelをもとに開発し、構成概念の構造と、empowermentに関連する諸要因との関係性を量的に検証した<研究3>。4) 研究成果をもとにターミナルケアに携わる看護師のempowermentを高めるための支援の方策を検討した。

調査対象は、日本のがん診療連携拠点病院409施設を無作為抽出法により施設全体の約20%となる82施設中、研究協力の得られた34施設（41.46%）でターミナルケアに携わる看護師1412名とした。無記名の自記式質問紙調査法によって492名（回収率34.84%）からの回答を得た。分析対象は、有効回答となる445名（有効回答率90.45%）とした。本研究は、平成26年度首都大学東京荒川キャンパス研究安全倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号11066、及び14063）。

＜研究1＞により、「ターミナルケアに携わる看護師のempowerment」の概念が【power】【発展的なプロセス】【相互作用の中で育まれるもの】とする3つの構成要素が明らかになった。属性のひとつである【power】には認知・感情的、行動的要素を示すものとして特徴づけられた。＜研究2＞では構造的empowermentが心理的empowermentに影響 ($\beta=0.42$) し、心理的empowermentを介してバーンアウト ($\beta=-0.28$) に影響を与えていた。また、構造的empowermentが心理的empowermentに影響し ($\beta=0.48$)、心理的well-being ($\beta=0.42$) に影響を与えていることが明らかになった。いずれのモデルの適合度も許容範囲であった。

($p<0.01$)。＜研究3＞により、ターミナルケアに携わる看護師の心理的empowermentは、＜影響力＞＜有意味感＞＜自己の能力に対する信頼＞＜自己決定＞の4つの構成概念 (Cronbach's $\alpha=0.851\sim0.910$) から成る円環構造が明らかになった。モデルの適合度は、GFI=0.99、AGFI=0.98、CFI=0.99、RMSEA=0.01と良好であった ($p<0.01$)。また、影響要因には組織の＜支援＞や、向上や学習への＜機会＞を与えるなどの構造的empowermentと、看護師のあり方、及び看護実践のあり方などの看護師の特性であった。モデルの適合度は、GFI=0.91、AGFI=0.87、CFI=0.93、RMSEA=0.08と許容範囲であった ($p<0.01$)。

本研究の結果からカナダで開発されたWork Empowerment Modelが日本のターミナルケアに携わる看護師においても有効であることが検証された。ターミナルケアに携わる看護師の心理的empowermentが4つの構成概念から成る円環構造の特徴が明らかになり、看護師の心理的empowermentを高めるための支援を説明できるモデルの妥当性が検証された。